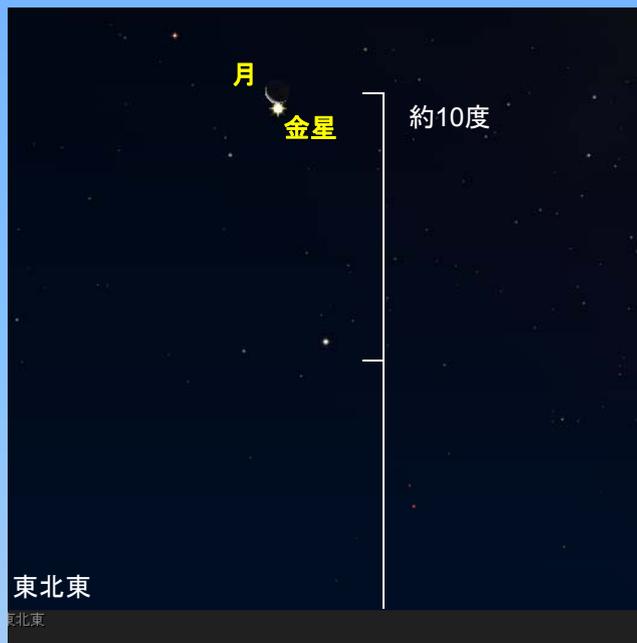


# 月と金星の競演！ 金星食を見よう

2012年は「金」がつく天文現象が続きましたが、その最後を飾るのが8月14日（火）未明の金星食です。明けの明星・金星が月にかくされ、そして月の夜側（暗くて見えない部分）からゆっくりと出てくるようすは幻想的ですよ！

## 14日の明け方＝13日の夜？

金星食が見られるのは8月14日（火）の午前2時30分ころから3時30分ころまでです。「8月14日」という日付だけを覚えているとその日の夜だと勘違いしてしまいがちですが、実際は14日の日の出前ですから、8月13日（月）の夜からの時間帯です。くれぐれもまちがえないようにしてくださいね！ 東の空低いところに見えますから、開けた場所で見ることをおすすめします。



↑2012年8月14日2時30分の東北東の空のようす

←金星食のようす

### 金星食の進みかた

※時刻は平塚市内の場合です。  
秒の単位は変わる可能性があります。  
(国立天文台 暦計算室 提供)

2時44分24秒	潜入のはじまり
2時45分44秒	潜入の終わり
3時28分20秒	出現のはじまり
3時29分46秒	出現のおわり



## 見どころは潜入・出現！

金星食は日食や金星太陽面通過とちがって、全経過見つけなくてもだいじょうぶです。見ていて迫力があってきれいなのは金星が月にかくされていく過程（潜入といいます）と月の裏側から出てくる過程（出現といいます）です。特に今回は月の「夜」の部分、つまり暗くて見えていないところから金星が出現しますから、何も無いところからじわじわと金星の明るさが増していくようすがいちばんの見どころとなります。肉眼でも楽しめますが、双眼鏡などをお持ちの場合はつかってみてください。より迫力ある姿が楽しめます！